

東南アジア諸国等文化遺産保存修復協力 (②セ02-12-2/5)

目 的

東南アジア諸国等においては、文化遺産の保存修復に関する国際協力や域内連携の動きが近年活発化しているが、なお多くの文化遺産を抱え、国ごとの保護体制に関するレベルの差も大きい。このため、当該地域における保存修復事業への協力及びこれに関する調査研究の実施を通じて文化遺産の保存・修復に関する技術移転を図るとともに、この分野での国際協力を推進する。

成 果

- カンボジア：(1)建築測量・凶化研修：タネイ遺跡にて新規研修事業を開始した。GPSとトータルステーションによる遺構実測からCADによる凶化まで基本的手順の技術移転を目的とし、アプサラ機構、プレアヴィヒア機構、JASAのカンボジア人スタッフが参加した。第1回は2012年7月30日から8月3日までの5日間で、上記各機関と早稲田大学より建築・考古を専門とする12名が参加した。第2回は2013年1月10日～18日のうち6日間で、新規を含む11名が参加した。(2)ICC出席：6月6日～7日にシエムレアプで開催されたアンコール遺跡保存開発国際調整委員会（ICC）技術会議に参加し、活動報告を行った。また、12月5日～6日開催の同年次総会にも参加し、書面報告と諸国際協力事業に関する情報収集等を行った。この間、微生物による石材保存への影響の評価に関するICC勧告案への意見書を作成し、事務局に送付した。(3)石造遺跡の微生物劣化に関する研究会：本研究に関しては、微生物種同定作業等を継続した。1月14日、アプサラ機構本部にて、同機構関係者と調査研究に参加した日韓伊専門家も交えて、2001年以来タネイ遺跡で行ってきた共同研究調査の成果を総括する研究会を同機構と共催した。
- タイ：(1)漆工芸品の保存に関する協力：タイ文化省芸術局の要請により、8月23日～24日にバンコク市内ラチャプラディット寺院の扉に施された螺鈿装飾の保存に向けた基礎的調査を実施し、技法や劣化状態に関する調査所見と保存計画の提案等を同局に提出した。(2)研究会開催：8月24日にバンコクの国立ギャラリーにて同局と研究会を共催し、前中期計画期間における煉瓦造、石造遺跡等の保存に関する共同研究成果を総括するとともに、タイ側専門家による最近の研究成果等についても情報共有した。(3)報告書作成：上記研究会の内容を中心に、過去5年間の協力成果に関する報告書を英語版で刊行した。
- インドネシア：(1)報告書作成：パダン被災文化遺産復興支援に関し、前年度実施した現地調査内容を中心に、図面等の基礎的データを含む報告書を日本語及びインドネシア語の両語併記にて刊行した。
- モンゴル：(1)現地協議：3月4日～5日にウランバートル市の文化スポーツ観光省ほかにて、セレンゲ県アマルバヤスガラント寺院の保存管理計画策定等に関する協議を行った。

以上の今年度活動内容を成果報告書にまとめて刊行したほか、上記の通り、タイ及びインドネシアとの協力に関する報告書をそれぞれ刊行した。

刊行物：・『東南アジア諸国等文化遺産保存修復協力 平成24年度成果報告書』 東京文化財研究所
 13.3・『パダン歴史地区文化遺産復興支援報告書：2012-2012調査成果 Laporan Bantuan Rekonstruksi dan Rehabilitasi Kawasan Bersejarah di Padang: Hasil Penelitian tahun 2011-2012』(日本語・インドネシア語) 東京文化財研究所 13.3・『Conservation of Monuments in Thailand [V]』(英語) 東京文化財研究所 13.3

研究組織

○友田正彦、川野邊渉、佐藤桂、鉾井修一、柏谷博之、秋枝ユミイザベル（以上、文化遺産国際協力センター）、朽津信明（保存修復科学センター）、二神葉子（企画情報部）、深井啓（研究支援推進部）

『世界遺産の動向と課題—第36回世界遺産委員会』（②セ01の一環として実施）

本書は、2012（平成24）年6月24日から7月6日にサンクトペテルブルクで行われた第36回世界遺産委員会についての報告書である。（2013年3月、40ページ）



『国際資料室蔵書目録 Library Catalogue of the International Cooperation Center Archives』（②セ01の一環として実施）

本冊子は、2012（平成24）年度に国際資料室で受け入れてデータベース化した1040点（和漢書188点、洋書852点）の資料及び国際資料室で所蔵する雑誌482種類を掲載した目録である。（2013年3月刊行、170ページ）



『敦煌壁画の保護に関する日中共同研究 2012』（②保修08の一環として実施）

本報告は、平成24年度に開始された東京文化財研究所と敦煌研究院の共同による第6期「敦煌壁画の保護に関する日中共同研究」（5年間）の第2年目活動内容の概略を示すものである。平成24年度は、3回の現地共同調査（8月、11月、1月）と、中国側の来日研修（6月）を実施した。共同調査の成果として「第285窟壁画の顕微鏡による表面観察」「第285窟壁画の分光反射率測定」「携帯型蛍光X線分析装置による第285窟壁画に使用された材料調査」の報告3編を掲載した。また文化財保存修復学会（6月）で発表した「敦煌莫高窟第285窟壁画の劣化要因の検討—模擬壁画を用いた劣化実験—」と日本建築学会（9月）で発表した「敦煌莫高窟内の壁画の劣化に関する研究—塩の析出による壁画の劣化の評価—」を掲載した。



『東南アジア諸国等文化遺産保存修復協力 平成24年度成果報告書』（②セ02の一環として実施）

平成24年度に東南アジア諸国等文化遺産保存修復協力として実施した、カンボジア及びタイにおける文化遺産保存修復協力の内容、並びにインドネシア、モンゴルでの協力に関する事業成果をまとめたものである。（2013年3月刊行）



⑥刊行物 Area17

『パダン歴史地区文化遺産復興支援報告書：2011-2012調査成果 Laporan Bantuan Rekonstruksi dan Rehabilitasi Kawasan Bersejarah di Padang: Hasil Penelitian tahun 2011-2012』(②セ02の一環として実施)

平成23年度文化庁委託「西スマトラ州パダン市における歴史的地区文化遺産復興支援(専門家交流)事業」の成果のうち、パダン歴史地区の町並み及び建造物に関する現地調査の内容と成果を日本語とインドネシア語の両語併記でまとめたものである。(2013年3月刊行)



Conservation of Monuments in Thailand [V] (②セ02の一環として実施)

本報告書は、タイ文化省芸術局との協力合意書に基づいて平成20年以降に実施した共同研究に関して、2012(平成24)年8月にバンコクで開催した研究会の内容を中心に英語版でまとめたものである。(2013年3月刊行)



『バーミヤーン遺跡資料集2 バーミヤーン谷中心部の地形測量』アフガニスタン文化遺産調査資料集別冊第5巻(②セ03の一環として実施)

Documentation of the Bamiyan Sites 2, Topographic Survey of the Central Part of the Bamiyan Valley, Recent Cultural Heritage Issues in Afghanistan, Supplement 5

本書は、株式会社パスコとの共同研究によって実施されたバーミヤーン谷中心部の地形測量の成果である。重要な遺跡が数多く分布する谷の中心部の衛星画像及び地形図を編集、収録し、また測量の方法についても詳細に記載したものである。なお、ユネスコ・世界遺産センターからの受託事業「ユネスコ/日本信託基金 バーミヤーン遺跡保存事業」の一環としても実施された。(2012年11月刊行)



Geophysical Survey of the Buried Cultural Heritage in Bamiyan: Final Reports of 1st and 2nd Missions, Recent Cultural Heritage Issues in Afghanistan, Volume 4 (②セ03の一環として実施)

本報告書は、『バーミヤーン遺跡の地下探査-第1次及び第2次ミッションの成果-』アフガニスタン文化遺産調査資料集第4巻(2010年4月刊行)の英語版である。(2013年3月刊行)

